

ぱれっと

2013
2月
No.162



P 2~3 **特集** | 被災地域の再生に取り組む団体の「今」

六郷・七郷コミネット
がんばっぺ岡田の会

P 4 **サポセン復興支援事業報告** | つながる つなげる サポセン

P 5 **サポセン事業報告** | NPOも支援者も元気になる！資金調達のいろは

P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ**

特集

被災地域の再生に取り組む団体の「今」

震災後サポセンでは、津波被害のあった宮城野区・若林区で、地域とNPOとをつなぐお手伝いをしてきました。今回は、ぱれっと2011年11月・12月号でご紹介し、2012年2月にサポセンで開催した復興支援活動報告会にもご登壇いただいた、それぞれ宮城野区と若林区で地域の復興に取り組む2団体の「今」を伺いました。

つながりを生かした地域コミュニティ再生に向けて

六郷・七郷コミネット

六郷・七郷コミネット(以下、コミネット)は2011年6月、仙台市若林区六郷・七郷地域に関わる住民や企業、NPO、大学、社会福祉協議会、市民センター、行政などで構成され、地域で必要とされる支援を団体同士の協力により効果的に実施するためのコミュニティネットワークです。

2012年2月の報告会では、参画団体が連携したニーズ把握やニーズに対応したお茶っこ飲みなど事例のご紹介、そして自立に向けた生活再建とコミュニティ再生を目指してさらなる活動を行っていくというお話を伺いました。

2012年度のコミネットは、「地域誌作成」「お茶っこ」「情報」の3つの部会が活動しています。

「地域誌作成部会」と「お茶っこ部会」では、被災した地域の地域誌作成に取り組み始めました。NPO法人20世紀アーカイブ仙台が所蔵する昔の地域映像を、市民センターなどに集まった被災地域住民の方にご覧頂き、1人1人が思い出した地域の記憶を、地域誌としてまとめていくという取り組みを続けています。

「情報部会」では、団体のホームページ内で参画団体の支援情報や若林区区内で行われるイベント情報などを取り上げ、地域の方や地域で活動する団体を通して全国へ復興の動きを発信しています。

2012年10月より、コミネットに「復興応援隊※」として20歳代の2名が加わりました。復興応援隊の2名は現在コミネット事務局として、参画団体のネットワーク構築、仮設住宅などで行われる参画団体の支援活動の補助など、多種多様な業務に取り組んでいます。いずれこの2名が、コミュニティ形成や地域団体のネットワーク形成など、地域の復興において重要な役割を担っていくことになりそうです。

六郷・七郷地域を中心として、様々な個人・組織が力を合わせているコミネット。復興まちづくりは、市民協働の力により少しずつ進み続けています。

(菊地竜生)

※「復興応援隊」は、被災地の住民主体の地域活動を促進するため、宮城県が市町村及びNPO等と連携して、地域人材を育成する取り組み。復興応援隊は、地域住民の活動支援に従事する。



地域紙作成の様子

▲ (昭和の仙台8ミリ映像で楽しむ茶会)仮設住宅の集会所にて

2012年の主な活動 -----

◆2012年8月29日(水) 若林区役所と共催で「支援者のための若林区復興情報セミナー」を開催。仙台市復興計画の説明、各仮設住宅の現状と課題、展望などを共有する場となった。

◆2013年1月22日(火)「お茶っこ部会拡大版」として、若林区区内で被災者の方向けに「お茶のみサロン」を実施している団体同士が集い、互いのノウハウ共有や支援のあり方を考える場を開催。

○ 団体情報 ○

六郷・七郷コミネット事務局

(若林区役所まちづくり推進課内)

○ 連絡先

〒984-8601 仙台市若林区保春院前丁3-1

TEL:022-282-1111 内線6136 FAX:022-282-1152

E-mail:67cominet@city.sendai.jp

HP:http://67comi.net/

今が自分たちの進むべき道を見極める時 “優しく楽しい岡田”をつかっていきたい

がんばっぺ岡田の会

「がんばっぺ岡田の会」は、宮城野区岡田地区の住民の心の復興と、自分たちの暮らす地域を自らの手で盛り上げようと結成された団体です。震災後バラバラになってしまった住民が一堂に会する場を提供しようと「おかだ夏まつり」や「復幸を願う音楽祭」など住民参加型の催しを開催してきました。その活動は、2012年の報告会の中で、被災地の住民とNPOが出会いつながることで広がった活動事例として報告していただきました。

現在会員は15人。イベント開催時には毎回10～20人ほどのボランティアが関わっています。資金源は、寄付や募金のほか、事業ごとに助成金を申請して運営。なによりも地域の方に喜んでもらえることが活動の励みであり一番の喜びだそうです。



2012年おかだ夏祭りの様子

震災から2年余り、発足当初に比べて地域に住む人たちの意識の中に変化が出てきたと代表の伊藤正敏さん。「その兆候として、イベントを開催するごとに人の集まりが減ってきていますね。特段集まらなくてもそれぞれコミュニケーションが取れるようになったのではないのでしょうか。また、移転問題など行政の動きとも関連して岡田地区全体のことより、まず自分の住む地区の動きの方に重点が置かれているのではないかと感じています」

そんな状況の中で今は、会としての活動の意義が問われている時期。「メンバー同士でじっくり話し合い、活動内容などを見直していこうと思っています」と、伊藤さん。「目指すところは、現代版岡田

青年団。大人も子どもも一緒になり、岡田に伝わる昔遊びを継承していくなど、まだまだ自然が残っている地元での遊び方や楽しみ方を作っていきたいです」と思いは膨らみます。

また、学校やPTAとのつながりを深め、今も続けている外部からの被災地支援の受け皿になりたいと考えています。現在「桜3.11プロジェクト※」とのコラボレーション企画として、3月17日(日)に岡田小学校で実施する音楽祭「岡田の風Vol.2」の準備が進行中。子ども支援という視点が、今後の活動を継続していくカギとなりそうです。

地域の絆を取り戻すため積み重ねてきた活動の実績と人とのつながりは、確実に会の財産となりました。「がんばっぺ岡田の会」が、これからの岡田の地域づくりを支え牽引していく集団として、試行錯誤しながらもその地域の底力を発揮していくことを期待します。
(葛西淳子)

※大地震と津波の記憶を永続的なものとするを目的に、被災地域の小中学校を中心に桜を植樹するプロジェクト。

2012年の主な活動 -----

- ◆2012年8月12日(日) 岡田小学校体育館にて、「岡田夏まつり」を開催。がんばっぺ岡田の会が中心となり今年は「自立」を掲げて企画準備。
- ◆2012年10月21日(日) 岡田小学校にて、教育・福祉・経済などの講演で活躍する石川洋氏を招き「映画上映会&ミニコンサート ここからはじまりつながる」を開催。
- ◆2012年12月8日(土) 高砂市民センターにて、「高砂社協まつり」に参加。岡田味噌を使った豚汁を振舞う。

○団体情報○
がんばっぺ岡田の会

○連絡先:
E-mail: ganbappeokada@yahoo.co.jp
HP: http://ganbappeokada.sakura.ne.jp/

サポセン 復興支援 事業報告

市民活動サポートセンターは、被災地コミュニティに、そして被災者個人の方々に直接的に、継続的に様々な形での市民活動による支援が届く事を目的として復興支援事業を行っています。

◆ 情報を収集し支援をつなぐ

サポセンかわら版の発行

震災直後からNPO等が行っている復興支援活動を伝え、被災者一人ひとりの課題解決に役立ててもらえるよう「サポセンかわら版」の発行を続けています。今年には仙台市の「復興定期便」へ同封し、仮設住宅に入居している方々へ直接お届けしています。※サポセンHPからバックナンバーの閲覧ができます。



◆ 復興支援団体への情報提供と意見交換の場

サポセンサロンと 考えるテーブルの開催



▲ サポセンサロンの様子

サポセンサロンとは…
参加者同士の情報交換や学び合いの場を通して復興の今を知り、社会にある資源（人材、物資、資金、ノウハウ、情報など）を被災地域で活動する方々につなげる企画です。

団体支援を行う中、様々な団体の資金が底をつく状況や、環境の変化から組織・事業運営に課題が出始めている団体を多く目にしました。また、長期的な視点に立つと、地域におけるコミュニティの在り方や、それを支える人材育成などの課題も見えてきました。

そこでサポセンでは、日頃から行っている個別相談に加え、サポセンサロン事業として団体間の交流や運営支援を行ってきました。2012年6月に行ったサロンでは、宮城県共同募金会や仙台市社会福祉協議会にご協力いただき、初めての助成金獲得を目指す復興支援団体向けの助成金説明会を実施しました。この取り組みは、その後仙台市外の被災地における助成団体の助成金制度告知や獲得支援の方法として採用されました。

また、復興への関心の低下に伴う支援の減少という課題に対して、震災記録や復興情報の継続的な発信、そして被災地内に共通する課題に関して話し合う場『考えるテーブル』事業をせんだいメディアテークと実施するなど、団体支援のみならず、震災の記憶が風化しないことにも取り組んでいます。

◆ 被災地の支援団体同士の橋渡し

今年度は、昨年から継続して若林区に出かけ、サポセンの持つ資源を復興支援に生かしていただくよう取り組んでいます。

具体的には、支援団体同士の会合に参加しながら、サポセンの持つ助成金情報、団体情報などの提供を行っています。P2で紹介した若林区の六郷・七郷コミネットへの参加もその一例です。また、同区の社会福祉協議会等の主催する復興支援関連のフォーラムでは、企画立案時から関わり、サポセンの全国的なネットワークを生かしてのゲストコーディネーターも行いました。



▲ 若林区の被災者支援グループの会合出席の様子

つながる
つなげる
サポセン

サポセンでは来年度も復興支援活動を行う団体に、悩みを共有する場や活動資源の提供、相談を行います。そして、まだまだ足りない復興の担い手を一人でも多く育成する取り組みを進めていきたいと考えています。
(藤原航)

サポセン 事業報告

サポセンでは、市民活動や復興支援活動、シニア世代の社会貢献活動を応援するため、市民活動の基礎知識から団体運営に関することまで、様々な講座を開催しています。



NPOも支援者も元気になる！

NPO資金調達のいろは

2012年12月22日(土)、NPOの理事や事務局スタッフなど、経営に携わるメンバー向けに、組織のミッションや戦略、事業計画に基づいた中期的な資金調達について、マーケティングの考え方や具体的なノウハウを学ぶ講座を開催しました。講師は、NPOマーケティング研究所所長、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会理事の長浜洋二さんです。当日は、29名の方にご参加いただき、様々な資金調達方法を具体事例を通して学ぶとともに、実践ワークショップを行いました。

レクチャーのポイント！

■ NPOの資金調達の種類

- ・会費
- ・寄付金
- ・事業収入
- ・助成金/補助金
- ・委託金/受託金
- ・金利
- ・借入金
- …それぞれの団体の現状に合った資金調達の方法を選ぶことが大切です。

■ 寄付集め4つのポイント

- ・寄付者にとっての価値
 - ・寄付者の負担
 - ・寄付者とのコミュニケーション
 - ・寄付者の利便性
- …安定した運営財源を得るためには、様々な戦略的仕掛けで、支援者(寄付者)にアクションを起こさせることが大切です。

ワークショップ

グループに分かれ、イベントのチラシを作成。イベントの内容は共通で、広報のターゲットはグループごとに設定されました。同じイベント内容でも、ターゲットが違うだけでまったく違うチラシができました。「ターゲットにどんなアクションを起こしてもらいたいのか」を明確に伝えることが、支援者をつかむ上で大切とのこと。

参加者のみなさんからは、「資金調達で、支援者のことを知ることなど、たくさんの具体的なポイントを押さえることができた」や「今回教わったテクニックを早速、自分の団体で実践したい」などの感想をいただきました。
(松村翔子)



講師：長浜 洋二さん

NPOマーケティング研究所 所長
公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会 理事

1997年に米国ピッツバーグ大学へ留学し、NPOマネジメントや公共政策に関わる公共経営学修士号(MPA)を取得。卒業後、米国NPOで、リサーチ、コンサルティング、ファンドレイジング、民間とのパートナーシップ推進、アドボカシー活動を行う等、国の内外、官民を問わず、幅広い経験を持つ。

2012年、NPOにおけるマーケティング力の強化を目的とした『草莽塾』(そうもうじゅく)を主宰。

市民活動サポートセンターからのお知らせ

2/22 (金)	復興のひとづくりを考える報告会 ～仙台の復興支援とその人材に関して～
午後2時 ～午後5時 イベント	<p>これからの復興の鍵は「地域人材」。市内で復興支援を行う団体の報告から地域人材の現状と課題を掘り下げ、参加者の皆様と共にこれからの「地域人材」について考えます。</p> <p>会場:市民活動サポートセンター6階セミナーホール 参加費:無料 定員:50名(先着順) 対象:復興支援活動に関心のある市民の方々 申込:チラシ裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは1階受付にて。お電話でも申込可能。</p>
3/2 (土)	なるほど、そうだったのか! 活動計算書への移行
午後1時 ～午後4時 講座	<p>「活動計算書に移行したいけれど、難しそう…」とっていませんか? そもそも活動計算書とは? 収支計算書と共通やるべきことは? など、解説やワークで疑問をすっきり解消しましょう。</p> <p>講師:成田 由加里さん (公認会計士・税理士 東北大学会計大学院教授) 会場:市民活動サポートセンター4階研修室5 参加費:1,000円(当日支払) 定員:20名(先着順) 申込:チラシ裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは1階受付にて。お電話でも申込可能。</p>
3/7 (木)	NPOいろは塾 90分でNPOの基礎を学ぼう!
午後7時 ～午後8時半 講座	<p>震災復興支援活動で活躍するNPOの活動事例を紹介するとともに、NPOの基礎についてお話しします。最後のサポセンガイドツアーもお楽しみに。</p> <p>会場:市民活動サポートセンター4階研修室5 参加費:無料 定員:15名(先着順) 申込:チラシ裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは1階受付にて。お電話でも申込可能。</p>

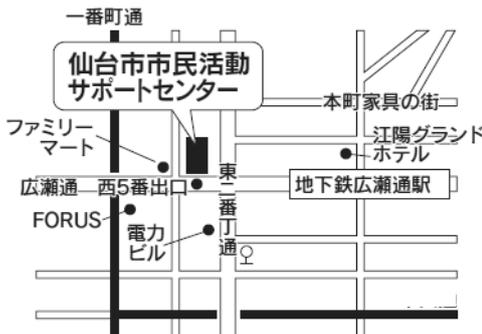
■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日: 午前9時～午後10時・日祝: 午前9時～午後6時

■ 休館日: 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 及び、年末年始(12/29～1/3)

■ 相談・つながるサロンとは

平成24年より、これまで別々だった市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3Fに集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

このようにご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談 など

相談時間

- ・平日: 午前10時～午後8時
- ・日曜・祝日: 午前10時～午後5時

編集後記:

今年の仙台は寒く例年より雪が多いです。この時期、スタッフは天気模様に敏感になります。なぜなら、雪が降った場合、来館者や道行く人の足元の確保、つまり雪かきが必要だからです。安全安心にサポセンを利用していただくために欠かせない冬の作業です。

発行: 仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日: 2013年2月11日

編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人: 小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間: 2010年4月1日～2015年3月31日]